

## 用語の接頭語

事象を記述する接頭語がある。頻度回数をあらわす“tachy/brady”、一回量あるいは一定時間内の量をあらわす“hyper/hypo”、回数あるいは量をあらわす“poly/oligo”。無である“a”。対応する日本語もある。これらはトータルとして「量」をあらわしている。ところで、“dys”困難・苦は量ではない。範疇が異なる「質」である。

頻度である息切れ（症状）・頻呼吸（所見）と質である呼吸困難・呼吸苦は異なる事象である。100m 全力疾走して息がハアハアと弾むのは頻呼吸の息切れで1回の吸気呼気はなめらかで苦しくはない。餅をのどに詰まらせて1回の吸気呼気が苦しいのが呼吸困難である。これを区別せずに、なんでも呼吸困難・呼吸苦と述べ書いてあるのを頻回にみかける。それだけ認識が低質となったわけがたいへん残念といわねばならない。

	頻度 回数		回数 量		量		無	質
	tachy-	brady-	poly-	oligo-	hyper-	hypo-	a-	dys-
呼吸	pnea 頻呼吸			pnea (稀発)呼吸	pnea 過呼吸	pnea (低)呼吸	pnea 無呼吸	pnea 呼吸困難
月経			menorrhoea 頻発月経	menorrhoea 稀発月経	menorrhoea 過多月経	menorrhoea 過少月経	menorrhoea 無月経	menorrhoea 月経困難
尿	urea 頻尿		urea 多尿	urea 乏尿			urea 無尿	urea 排尿困難
脈	cardia 頻脈	cardia 徐脈						
形成					plasia 過形成	plasia 低形成	plasia 無形成	plasia 異形成

いくつかの代表的な呼吸を記述してみよう。

100m 全力疾走； tachy-hyper-normo-pnea

Kussmaul 大呼吸； tachy-hyper-normo-pnea

気管支喘息； tachy-hyper-dys-pnea

ため息； oligo-hyper-normo-pnea

誤嚥窒息； tachy-hypo-dys-pnea

死戦期； oligo-hypo-normo-pnea

死亡； a-pnea